

秋田県立大学「人類の持続可能な発展に資する科学技術」
「苗」研究のエントリーシート

研究テーマ	雑草の民俗植物学的研究		
研究代表者	露崎 浩	役職	教授
フリガナ	ツユザキ ヒロシ	学位	学術博士
学科等	アグリビジネス学科	Eメール	tuyuzaki@akita-pu.ac.jp
主な共同研究者(学内)			
主な共同研究者(学外)			
研究の内容			
<p>雑草は、人間による攪乱環境下（田畑、庭、路傍など）に生きる一群の植物であり、人間の活動空間に多く存在する。そのため、雑草は、人間との長いつきあいのなかで、民俗的な役割を担い、また対象となってきた。例えば、子供たちは道くさ（草遊び）から自然について学ぶ。七草粥（セリ、ナズナ、・・・）は食の習俗として広く定着している。ドクダミは民間薬、チガヤは茅の輪くぐりの素材に用いられる。</p> <p>本研究は、雑草を対象とした、あるいは雑草を用いた民俗の事例を、日本の各地で聞き取り記録し、また文献調査を行うものである。これにより雑草の民俗に関する知見を集積し、雑草の民俗にみられる地域性や普遍性を明らかにするなど、整理と体系化を図る。あわせて、人間と雑草（自然）との関係について、人々に提示・提言する。</p>			

研究の独自性・アピール点

雑草は防除すべき不必要な存在として考えられることが多い。本研究は、そのような雑草を民俗において「役に立つもの」として捉え、学問的体系化を図ろうとする点に独自性がある。

期待される成果・波及効果

雑草の遊びや食は、子どもに、発見の喜びや感動を与え自然への理解を深めさせる働きがある。七草粥のように雑草は季節を告げるなどして人生を豊かなものとする。

身近な植物である雑草を対象とした民俗植物学的研究は、人間と自然（雑草）との共存のあり方・重要性を人々に示すことを通じ、人間が幸福に生活続けることに寄与すると考えられる。

関連する主な業績

露崎浩. 2010. 生活文化の視座から雑草をみる. 人間・植物関係学会雑誌9:1-6.

キーワード

幸福, 雑草, 自然との共存, 民俗植物学